
少尉と軍曹2

hiromaru712

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

少尉と軍曹2

【Nコード】

N8188Y

【作者名】

hiromaru712

【あらすじ】

「ポエム24」という遊びがある。

Twitter詩人・歌人が集い#poem24というハッシュタグで午前零時丁度に決められたお題に沿った詩や歌を一斉にPostするという、新世代の雅な遊びだ。

開催日程は不定期。開催告知も不定期。お題提案者は毎回参加者の中から選ばれるが、その全てを主催者である若きTwitter詩人が任意に（有り体に言えば気紛れに）決定している。参加者はその詩人のアイコン（本アカウントは頼杖の男性イラスト、ポエム2

4用サブアカウントはメロンパンを頭に載せたキツネ少年キャラの一挙手一投足に自然ハラハラドキドキすることになる。この物語はポエム24参加者である著者が、そのハラハラドキドキの主催者観察風景を擬人化し、Twitterタイムライン上に主催者のツイートがある度にタイムリーにリアクションとしてPostしていたものを、ほぼそのまま纏めたものだ。ツイートを順に貼り付けただけなのでお見苦しい点も多々あるかとは思いますが、そういった事情なので御容赦願いたい。なおコンピュータや情報関連のそれっぽい用語や単位、数値は架空のものであることに留意されたい。

G l o o m y f o x

【『少尉と軍曹』はフィクションです。実在の人物、団体、機関とは一切関係ありません】

二曹「フタヨン回ります。TL問題なし。メロンパン値正常。」少尉「ご苦労、二曹。すまん。初日から君一人で。」「いえ。問題ありません。軍曹は…体調不良ですか?」「いや。お母上が倒れてな。命には別状ないようだが。」「…そうですか。」「あと一時間頼むぞ。」「了解。」

二曹「マルヒト経過。全て異常なし。」少尉「状況終了。」「ログは甲種で本部と笠岡へ送信。クローズチェックも…少尉、退勤を切られましたか?」「私は責任者だ。最後に退勤、退室する。先に切れ。二曹。今日は足はあるのか?」「少し寝坊しまして車で…あ!…来ました。」「…何故悔しそうなんだ?」

二曹「お先に失礼します!」少尉「…なんだ?慌てて。」

少尉「どうした二曹。故障か?」「バッテリーが上がっちゃったみたいで…。」「どれ。見せて見る。」「えっ?はい…。」「接点が緩んでる。これで…【ドルルン!】…そら。直ったぞ。」「…有難うございます。」「…何故悔しそうなんだ?」

【主催者ツイート】

お題を決めて24時にポエムPOSTする遊び 『ポエム24』

30回目の今夜のお題はめうたむさん (@white_tale

61921) 提供

『癖くせ』

参加表明不要の自由参加です。 #poem24 のタグをつけて下さい。お題そのものは入ってなくてもOKです。

少尉「前線の様子は？」軍曹「苦戦しています。ただいつも通り土気は高いようです。」二曹「笠岡より入電。今回分のアナウンス原稿が添付されています。『健闘ヲ心カラ』」少尉「返電。『歌八裏切ラズ』。」少尉「了解。」軍曹「アナウンス原稿のTL魚雷への装填…分かる？」二曹「はい。読込み中です。」

二曹「笠岡より入電。24参加者のコメント増加。」軍曹「オート暗転ディスプレイジャーにフィードバックエラー。作動しません。」少尉「手動に切り替える。」少尉「了解。」二曹「アナウンス発射管問題なし。いつでも行けます。」少尉「よし。投稿POSTのタグ確認。…両名とも焦るな。訓練通りやれ。」

二曹「セカンダリモニターに断続ノイズ。『気当たり現象』と推定。『湖水流円』を実行。…状態回復。フォロースルー残時間を計算中。…想定。11分。軍曹、その間、笠岡通研関連業務もお願いします。」少尉「了解？」少尉「いいぞ、二曹。その調子だ。君一人の部署じゃない。楽に行こう。」二曹「了解。」

軍曹「残り30分。」少尉「ターゲットスコープ・オープン。明度調整。」軍曹「了解。ターゲットスコープ・オープン。電影クロスゲージ明度70。」少尉「投稿POST装填。目標精査の後、誤差修正。」二曹「了解。誤差修正。俯角2度。仰角3.1度。」少尉「呑む息にアドレナリンの味がする、か。」

少尉「暗転用意。今日は手動だ。間違うなよ軍曹。」軍曹「大丈夫です。そういうの、『軍曹に暗転を説く』って言うんですよ。」「
…まんまじゃないか。」

軍曹「暗転、よし！」

少尉「アナウンス用意。」二曹「了解。発射管注水。…発射管開きます！」

大変長らくお待たせ致しました。

間もなくpoem24の開演です。

今夜のテーマは「癖」。

今宵も、今日と明日のはざまに煌めく詩と歌の競演を、どうぞごゆっくりお楽しみ下さい。

#poem24

二曹「アナウンス投下よし！」少尉「投稿POSTよい！」

「…なんてね。」の癖だけ残し 去る君に そつとつぶやく「また
な…なんてね。」 #tanka #jttanka #短歌 #p
oem24

軍曹「投稿POST投下よし。TLクラスタ及び通常クラスタへの
反映確認。」二曹「…ふう。」少尉「状況終了。デフコン解除。ご
苦労だった。二人とも。二曹も…よくやった。ただか二度目とは
思えん。」二曹「有難うございます！」

軍曹「クローズチェックも…あと自分らの退勤だけです。」少尉「
先が上がっていい。私は施設課にオート暗転のメンテ依頼を上げて
から上がる。」軍曹「配電盤の雨漏りですよ。先月もメンテ依頼上

げられてましたよね？ちょっとガムテで応急して来ます。二曹もおいで。場所教えとくから。」二曹「はい。」

少尉「すまなかつた軍曹。濡れなかつたか？」軍曹「いえ。二曹が傘を保持してくれたので。」少尉「二曹は…駅まで送ろうか？」二曹「…宜しいですか？」軍曹「あ、自分もお願いします。今日実家から直だったんで。新幹線口からタクシーで来たんです。」「チツ。」少尉「…今誰か舌打ちしなかつたか？」

二曹「笠岡より入電。対象は夜勤の模様。」軍曹「TL異常なし。メロンパン値0.92mrp。」少尉「うちの主力部隊…712中隊も大概激務だが…狐の方も大変そうだな。」軍曹「…人は歌や詩を食べて、腹が膨らむようには出来てないですね。」二曹「…作者の想いの丈に、胸は膨らみませうけどね。」

軍曹「お疲れつした！。」二曹「お疲れ様でした。軍曹、今日は原付で？」軍曹「うん。一応予備のメットも搭載して来た。」二曹「でも雨降りそうだし…少尉あの…。」少尉「すまん。今日は約束があつてな。迎えが来るんだ。」軍曹「女ですか？」少尉「総監部の同期だ。男だよ。飲む約束でな。」

軍曹「そか。少尉明日お休みですもんね。」少尉「明日の事は熊野中尉に申し送つてある。粗相の無いようにな。」軍曹「了解。明日はブーさんか…。」少尉「軍曹。それが粗相だ。相手は上官だぞ。自重しろ。」軍曹「了解。」少尉「軍曹。二曹を駅まで送れ。安全運転でな。」二曹「えっ。」軍曹「了解？」

二曹「二人切りで送ってもらおう。アカウントを教えてください。Twitterを通じて仲良くなる作戦、第一段階で頓挫中…戦術を根本から見直すか…不撓不屈の精神でやり抜くか…。」

少尉「…はつくしゅん？」

品切れで 次回入荷も未定です。 あの日の僕の夢と希望は # t
a n k a # j t a n k a # 短歌

ご予約も承っておりません。 「夢」はネットじゃ高値がついて
t a n k a # j t a n k a # 短歌

生産が追いついてない状況で 「希望」はいつも需要過多です。
t a n k a # j t a n k a # 短歌

二曹「712中隊より入電。短歌三首。」軍曹「何かあったんでし
ようか。やや愚痴っぽいですね。」熊野中尉「うん。ポエム24と
は関係ないですよ。ログだけとつといて。」二曹「了解。」熊野
「メロン値は？変わりない？」軍曹「…はい。0.5m r p前後で
微動。」熊野「はあ…。」二曹「…。」

二曹「笠岡より入電。転送ツイートをメインに出します。」軍曹「
メロンパン値僅かに上がる。現在12.6m r p。グラフ細動。」
熊野「うーん。まあ誤差範囲でしょ。…仲本二曹は彼氏とかいるの
？」二曹「…は？いえ。生憎。」熊野「へえ。可愛いのに。最近の
若者は見る目がないねえ。」二曹「…。」

軍曹「フタヨン回る。T L異常なし。メロンパン値3から6の範囲
で波打つ。」二曹「笠岡沈黙。転送、ありません。」熊野「お疲れ
様。じゃ時間になったらクローズして上がって。」二曹「え？」軍
曹「…お疲れ様でした。お気を付けて。」熊野「お先に。」……
二曹「…いつもああなんですか？あの方。」

二曹「笠岡より入電です。軍曹。」軍曹「24との関連は薄い、か。二曹。笠岡の遠藤准教授に連絡。この間の飲み会がどれくらい楽しかったかを300点満点で評価して貰え。フ…危機に際して心が踊る…とはな。」…少尉に言いつけますよ。「やめて下さい。」

二曹「笠岡より再度入電。『結婚したい。』。軍曹「結婚か…鳥カゴに似ていると言った作家がいたな。外にいる鳥は入りたがり、中の鳥は抜け出そうと徒らにもがく…。」それ、作家じゃなくて哲学者ですよ。モンテーニュでしょ？エセー少尉。「どう？似てる？」…微妙に似ててイラツとします。」

二曹「クローズエック。完了です。退勤、切られました？」軍曹「先に切りな。今は自分が室長代行だ。最後に退勤するよ。」「はい。」

二曹「お疲れ様でした。」軍曹「ご苦労さん。プーさんとの一日はどうだった？」「なんかモヤッとしました。なんであの方が少尉より上官なんですか？」「防大出のキャリアだからね。少尉は一般大からの編入組。そういうもんさ。あ。」「どうしました？」「少尉からメール。『二曹を送れ。』」「……。」

二曹「おはようございます。シユン。」少尉「おはよう。どうした？風邪か？」「昨日の帰り…軍曹に送ってもらったんですが。」「ああ。私がメールした。」「途中で雨が降って来まして…。」…そうか。女性一人の帰り道、万一を考えての指示だったのだが…逆にあだになったか。すまない。」「いえ。」

軍曹「おはようございます。へっくし。」少尉「おはよう軍曹。…昨日は大変だったみたいだな。大丈夫か？」「ばい。」「…ちよっ

と雨宿りに止まればよかったのでは？」「スゴルびだいにぶわあつど、ふつで…やむのばすぐやんだんですが。」「にしても…」「やばでばみです。」「いや、似てないぞ。」

二曹「どうでした？飲み会は。」少尉「ああ。愉しからずや、さ。…不穏な噂も聞く羽目にはなったが。」「不穏な噂？」「…ポエム24のニセ企画があるらしい。」「へえ。ニセ者が出るのは人気の証なんでしょうけど。」「…ポエム25というタイトルだそうだ。」「…ノーベル安易賞をあげたいですね。」

二曹「笠岡より入電。メインに出します。」「少尉「本日二つ目のPOST。仕事のようだから日中に動きは無さそうではあるが…。」「軍曹「狐には何度ほ煮え湯をどばざれでぎばじだからで。」「少尉「軍曹。…鼻をかめ。」

二曹「少尉。一つ質問しても宜しいですか？」「少尉「なんだ？」「中将のあとの基地司令は…？」「ああ、中々決まらない。特殊機密取扱いの資格を持つ将官自体、殆どいないからな。時間がかかるんだろう。大槻副司令もばやいていたよ。」「…そうですか。シユン。」「…私にうつるのも時間の問題だな。」

軍曹「佐官の司令が来るんですかね？」「少尉「大槻副司令が大佐だぞ？それでは副司令がやり辛い。終戦が見えてるのに司令をさせる為だけに将官を増やすような特進もあるまい。だから決まらないのさ。」「なるほど。」「或いは、情報隊じゃない隊の資格保持者を…」「…なんです？」「…いや、まさかな。」

二曹「笠岡より…くしゅ！すいません。入電。シユン。メインに出します。」「軍曹「…なるほど。もっともな指摘、ですね。…712部隊はどうしてるんでしょう？」「少尉「ルールを決めてるわけでは

ないようだが…フォロワーの半分程度をフォローしているようだ。
自然にそうなったらしい。」「…中庸、か。」「

少尉「そう言えば副司令が仰っていたんだが、うちに新しい端末を
入れて下さるそうだ。」「二曹「新しいタワー2ですね。」「いや。
これを期にタワー1も新型になる。増設とパッチでなんとかしてる
が…もとの機械が古過ぎるんだ。」「二曹「確かに。9801なんて
聞かない機種ですもんね。」「二人「……。」「

軍曹「で、機械はこの、何になるんです？」少尉「オム二社のエ
スピオネージ2300、と聞いたが。」「軍曹「え？…高級外車が1
0台買えるマシンですよ？2台ともエスピの最新機に？どこからそ
んな予算が？」「神辺の通信施設の余力だろう。終戦までに使い切
る気だ。高性能PCなら転用が効くしな。」「

軍曹「うーん…」。少尉「どうした？嬉しくないのか？モニタも高
輝度タキオンディスプレイ。キーボードもチタンセラミック複合
キーで循環型化学ベンチレーター標準装備だぞ？タッチ熱問題も解
決だ。」「最新型の初期ロットは不安で。現行よく使うツールも今
の環境に最適化してるんで…手放しでは。」「

軍曹「選べるなら東レのパンデモニウムM09がよかったなあ。」「
少尉「東レ？あそこは光学機器メーカーじゃなかったか？」「とこ
ろが一種だけPC造ってるんですよ。パンデモニウムシリーズ。お
ととしのモデルはハッキングツールと相性がいいって評判で。キー
なんて黒曜石。スゲー渋いんですよね…。」「

二曹「笠岡より入電。4時POST。」「少尉「ゼルダ、か。」「二曹
「少尉はゲームとかされるんですか？」「社会人になってからはあ
まりな。時々買いはするが…中々クリアまでやらない。」「「どんな

ゲームを？」「旧作のリメイクが多いな。昔、何度もやったのにまた買ってしまう。」軍曹「…分かります。」

少尉「二曹、今日は君は早上がりだったな。上がっていいぞ。温かくして早く寝ろ。」二曹「…了解。軍曹。セカンドリは閉じます。申し送りは特にありません。」「了解。お大事に。」軍曹も…少尉。お先に失礼します。」「ああ、ご苦労。気を付けてな。」

二曹「はあ…。」

軍曹「内線1番。511？取ります。はい備管別。…分かりました。代わります。少尉。大槻大佐です。」少尉「代わりました。…は。ええ。あ、そうですね。副司令も肩の荷が降りますね。…で、どなたに？…え！しかし彼女は…。なるほど、分かりました。…はい。ありがとうございます。失礼します。」

軍曹「新しい司令、決まったんですか？」少尉「…。」「少尉？」「ああ、すまん。メロンパン値は幾つだ？」「…どうしたんです？メロンパン値の話なんてしてません。今、自分は、新しい司令が決まりましたか？つて。」「ああ…すまない。そのようだ。海外協力隊の石野情報大佐が着任される。」

軍曹「いつからです？」少尉「週明けだ。彼女は今、南スーダンのPKOを情報支援する任務に着いているが、今週一杯で任期が明けるんだ。」「へえ…南スーダン…つて、え？今『彼女』つて…」「その通り。石野涼子情報大佐は女性。新しい司令は女大佐だ。」「…お知り合い、なんですか？」「…。」

軍曹「…昔、お付き合い、なさってた…とか？」少尉「…さあな。状況中だ。慎みたまえ軍曹。」「…了解。」

二曹「来週の蟹座は…『凶』。もう…今週十分ツイてないのに…。
くしゅ！」

二曹「笠岡より入電。…忘年会についてですね。」軍曹「今年はどうします？遠藤うち、副司令…新しい司令にも声かけて盛大に行きますか。」二曹「あ、次の司令決まったんです？」軍曹「石野情報大佐って女性らしいよ。」二曹「へえ。この世界で女性って少ないから…話せる方だと嬉しいな。」少尉「…。」

晴天の空のせいにはできなくて いないあなたの大きさを嘯む #
t a n k a # j t a n k a # 短歌

澄み渡る風が肌身に言い聞かす 訪れる冬 去ってつた君 # t a
n k a # j t a n k a # 短歌

二曹「あ、続いて712中隊より。短歌二首。」軍曹「…寂しげ？」
少尉「失って初めて気づく…。古今、人の賢愚は様々に繰り返し問
われているが、その一点に於いてははつきり愚かだと言いつても
いいかもしれない。」軍曹「少尉もそんな経験が？」「…私が人で
はないとでも？無論私も例外ではない。」

軍曹「TL異常なし。メロンパン値1以下で微動。」二曹「笠岡も
沈黙を守っています。転送、ありません。」少尉「…うん。」軍曹
「少尉、先程から何を？」「例のポエム25が気になってな。見て
くれ、サブのBに出す。」軍曹「…もしかして…ポエム24『これ
だけ？』「検索にかからん。只の噂…か？」

二曹「笠岡より入電。4時POST。」少尉「面倒なタイプのクレ

「マーだな。」軍曹「どうせならスカイもスカイにして欲しいですね。」二曹「東京もトオウキヨに、ですね。」少尉「…新幹線のアナウンスか。」

二曹「笠岡より転送。対象は割とゲームもするんですね。」軍曹「だな。にしても少尉遅いな。大槻大佐と何話してるんだろ。」新司令についてミーティングって言ってましたけど…なんで少尉が呼ばれるんでしょうね。」「…それなんだけどさ。新しい司令と少尉…昔何かあつたんじゃないかな?」「え?」

二曹「何か、と言うと?」軍曹「少なくとも知り合いではありそうなんだ。副司令に呼ばれたのは新司令の人となりとかを、副司令が知ってたかつたんじゃないかな?ただそつから先が…。」「つまり…元恋人だった、とか?」「…分からない。ズバリ訊いたがはぐらかされた。」「…少尉の元カノ…新司令が?」

二曹「……。」軍曹「二曹。」「…。」二曹「入電だよ、712中隊から。」「え?あ…すみません。712中隊より…短歌二首…あ、いえ、三首。」「…やつぱ好きなんだね、少尉のこと。」「…何を言うんですか?!状況中に!そんな…嫌いじゃ、ないでございませうが…あれ?」「分かった分かった。」

軍曹「内線511…副司令室。取るね。はい備管別。あ、少尉…はい。いえ、特には…そうですね。分かりました。何かあればすぐ…いいえ。はい、失礼します。」二曹「…まだ戻られないんですね。」「…なんか長引きそうだった。」「…。」「…状況中には訊くなよ?」「…分かってます。」

少尉「すまない。遅くなった。異常はないか?」軍曹「はい。Tし、

メロンパン値、ヒューマノイドのツイート内容、全てネガティブ。兆候、ありません。」二曹「笠岡沈黙。712中隊健在。コンスタントに短歌をPOSTしています。」少尉「副司令も…時間を考慮してくればな。気が気じゃなかった。」

軍曹「新司令…石野情報大佐とは以前、同じ部隊に？」少尉「ああ。もう七年になるか…任官された最初の年に。北九州下曾根基地の情報班『電算総務室』で世話になった。彼女は二年先輩で諜報のイロハを教わったんだ。」「告白は新司令が？」「軍曹：私がそんな力マにかかると思つか？」「ダメ元です。」

二曹「お疲れ様でした。」少尉「ご苦労。軍曹、二曹を駅まで送ってくれ。私は副司令をお送りする。」二曹「…副司令、電車通勤なんですか？」少尉「いや、御宅まで送る。奥方が車をお使いだそうです。」二曹「…はあ。」軍曹「安心しろ二曹。今日は軽四で来た。」二曹「…そういうことじゃありません。」

Foxy commander

【『少尉と軍曹』はフィクションです。実在の人物、団体、機関とは一切関係ありません】

軍曹「TL正常。関連POSTなし。」二曹「笠岡沈黙。712中隊：くしゅ！すいません。健在。」少尉「了解。二曹、今日はもう上げれ。」「いえ、くしゅ！大丈夫でふ。」「そうは見えん。顔色もよくない。寝不足か？」「…はい。昨晚…眠れなくて。」「雨に打たせたのが悪かった。上げれ。命令だ。」

少尉「12月が近づくと…流石の狐も大人しいな。」軍曹「公務員にはピンとこないですが、一般企業は大変らしいですね。」「友人が小売だが…普段歩きまで早くなる、と言ってたな。」「師走、とはよく言ったものですね。」

軍曹「フタヨン経過。オールグリーン。」少尉「ふう…一息入れよう。」「コーヒー、今日もありありで？」「いつもすまん。ブラックにしてくれ。」「…少尉、二曹なんですが。」「ああ、何かあったか？」「何か…悩みがあるようなんです。」「眠れない、と言ってたな。」「…今度聞いてやって下さい。」

少尉「それは構わんが…軍曹が聞いてやってたらどうだ？歳も君の方が近い。それに相談に乗ってる内に仲が深くなる…ってのも良くある話だ。二曹が気に入ってるんだらう？」軍曹「…だからこそ、です。これでも作戦があるんです。二曹の話を聞いてやって下さい。」「…そうか。分かった。話してみよう。」

軍曹「お疲れ様でしたー。」少尉「ご苦労。軍曹、二曹の悩み相談

だがな。「はい。」「上官として部下のメンタルヘルスのケアはするが…君の期待するような展開には…なんかも知れんぞ。」「…はい。」「例えばなったとして…君はそれでいいのか?」「…ええ。」「…難儀な男だ。」「全くです。」「

軍曹「少尉は正直、二曹をどう思ってるんです?」「少尉「…健気で可愛い部下だ。」「告白とかされたら?」「…難しい質問だな。」「食事や映画に誘われたら?」「…。」「考えといて下さい。変につっけんどんになったりしないように。間違っても『軍曹も誘おう』なんてナシですよ。」「…難儀な男だ。」「

少尉「願うのは好きになった子の幸せ…か。優しいな、軍曹は。」「軍曹「オタクが一律、偏狭で独占欲が強い…なんて思わないで下さい。人一倍ナイーブで身を引くタチ。だからオタクやってる、なんて優しい人間も沢山いるんです。…目立つのは少数の偏執狂ですけどね。」「…問答無用の説得力だな。」「

少尉（考えといて下さい…と言われてもなあ…二曹。君は私とどうなりたいんだ…?）

二曹「ひ…くしゅ!」「

軍曹「戻りました。あー美味しかった。少尉、ご飯どうぞ。」「少尉「ああ。…今日は金曜カレーか。」「二曹「金曜カレー?」「軍曹「食堂に爺さん料理長みたいな人いるだろ?兵站長の田川少佐。カレーにすげえこだわってて、毎週金曜は特製カレーなんだ。仕込みに一週間かけた特製の。」「へえ…くしゅ!」「

軍曹「TL正常。問題なし。」「二曹「笠岡からの転送ありません。712隊は『誰か七七ください』に二首POST。」「二曹。」「

しゅん。はい。「少尉と話すチャンスがあつたらさ。」「…はい。「いきなり思いの丈をぶつけるより、ご飯なんか誘うのがいいと思うんだ。」「…。」

軍曹「余計な世話を承知で敢えて言ってるから、違つと思つたら無視してくれて構わないんだけど。」二曹「いえ。…私もそう思います。「お話があるんで、長くなるんで、ご飯でも食べながら…みたいなさ。相談がある部下のていで行けば、少尉は断らないよ。」「はい。…でしょうね。」「…頑張れ。」

二曹「笠岡より入電。」軍曹「言われた言葉の意味…か。」「軍曹…何故応援して下さるんです?」「君も少尉も好きだからさ。」「…。「それに少尉はあんなだからなあ。少尉と一緒に居たいが為に仕事辞めて人事システムクラックして乗り込んでくる位のガッツある子がいなきゃ…一生独身だ。あの人。」

少尉「何事もなくフタヨン、か。」「軍曹「カレー、食べて来たんですか?」「ああ。カレーは好物だから色んな所で食べるが…兵站長のは一二を争う味だ。何時間も鍋の前において自ら仕込むらしいぞ。」「二曹「金曜カレーって海自の習慣じゃないですか?」「少尉「流石だな、二曹。兵站長は元護衛艦乗りだ。」

二曹「お疲れ様でした。」「軍曹「つしたー。」「少尉「軍曹…挨拶はきちつとしろ。」「二曹「じゃ、私…これで。くしゅ!」「少尉「駅まで送ろうか?」「二曹「母が迎えに来てるんです。風邪引いたって言うたら、ご飯作りに来てくれて…。」「チツ。」「少尉「…今誰か舌打ちしなかつたか?」

母「背の高い方が隊長さん?言うてた少尉さんやる?…かつこええねえ。ぴつとして賢そうで。今度お母ちゃんも紹介してよ、挨拶し

たいけん。「二曹」：絶対、イヤや。くしゅ！」

軍曹「ＴＬ異常なし。メロンパン値0.4前後で安定。笠岡よりの転送もなし。」少尉「動かない、か。名前欄は？」「次回開催は未定、のままです。」「ぬけぬけと…ほぼずつと未定だろうに。」「全く。彼女…今頃はお母さんとのんびりしてますかね？」「久しぶりの親子水いらずで元気になるといいな。」

母「まつたく…こんな雑誌ばあ貯めて。読まんとなら捨てんね！」
二曹「ああもう、そのままにしておいてよ！まだ読んでないと欲しいもんの記事とかあるっちゃけん！」「そんな言いよつたらいつまでも片付かん！女の子なんやから部屋はいつも綺麗にし！」
「ぐちゃぐちゃではないんやしええやん。」

軍曹「明日はまた熊野中尉ですか？」少尉「そうなるな。何かあれば携帯にかけろ。多分すぐ出る。」「…色っぽい予定入れましようよ。」「こればかりはな…相手のあることだ。パソコンを使うようには行かん。」「…同じですよ。お互いのハードとソフト。スペック。費用対効果…最後は好み、です。」

軍曹「フタヨン回る。全て異常なし。」少尉「ご苦労。たまには私が入れよう。コーヒーでいいな。ミルクは1個、砂糖は2本？」「いや！いいですよ！自分やりますから。」「君には色々気を遣わせてるみたいだからな。せめてものねぎらいだ。」「不吉な…地球でも終わらなきゃいいけど。」「…あのな。」

母「なあ、みーちゃん。」二曹「なん？」「あんた賢いけん…お母ちゃんに分からんような不安や悩みを抱えてしまうこともあるやろな。」「…。」「そんな時はな、心の声にしっかり耳、傾けて…後

から後悔しない道を、ちゃんと選び。「…うん。「…どうなっても、お母ちゃんあんたの味方やからな。」

二曹「お母さん…。「母「ん?」「…ありがとう。「…なんね…それはこっちの台詞よ。みーちゃん。うちの子に生まれて来てくれて、ありがとう。ほら、はよ寝。治る風邪も治らんよ。「…うん。…お休み。「…お休み。」

軍曹「お疲れ様でした。「少尉「明日：実質君が室長代行だ。万一ポエム24があつたら…。「分かつてます。粗相のない範囲で上手くやります。「…頼む。「…二曹にいいとこ見せたいし。「…まあ、いよいよとなつたら電話しろ。「…平気です。二曹がいれば少尉はむしろ…。「…邪魔で悪かつたな。」

熊野「じゃあ、お先に。お疲れ様。「軍曹「お疲れ様でした。「二曹「お気をつけて。「…二曹「やはりいつもああなんです。あの人。「軍曹「まあね。居てもここじゃ役に立たないし…はけてくれたほうが気が楽だ。「…少尉は今頃なにをなさってるでしょうね。「…新作モノマネの練習とかかな?」

二曹「お疲れ様でした。「軍曹「ご苦労さん。今日もお母さん迎えに来るの?」「いえ、母は実家の方に。「…じゃあ良ければ…。「…駅まで送って頂けますか?」「えっ?」「私誤解してました。軍曹…。「…二曹。「…てつきり私に言い寄ろうとしてるんだと。「…。「…普通にいい方だったんですね?」

軍曹（…このパターンで来たかー。）

軍曹「…ま、いつか。「二曹「…何がですか?くしゅ!」「…まだ本調子じゃないんだね。「…昨日よりずっと楽ですけど…鼻がまだ。」

「早く乗りな。エアコン強めにかけるから」「はい。」「掴まれ二曹。まくるぞお。」「いえ。普通に安全運転して下さい。」「

軍曹「ＴＬに関連ツイートなし。メロンパン値０．８前後で細動。」「
二曹「笠岡沈黙。７１２部隊も本日は短歌POSTなし。」「少尉「
うん。フタヨンまでもう少しだが：油断はするな。」「二人「了解。」「
【ウイーン】「邪魔をするぞ。」「少尉「：石野情報大佐！」「軍曹「
え？新司令？」「二曹「：あの方が：。」「

少尉「：ご無沙汰しています。情報大佐。髪：短くされたんですね。
「石野「直れ。状況中にすまん。久しぶりだな、一曹。いや：今は
少尉か。」「七年ぶりですが：大して出世できず恥ずかしい限りで
す。」「謙遜するな。報告書を見た。貴様らしい活躍ぶりではない
か。」「：類無き部下あればこそ、です。」「

石野「：この部屋から一步も出ず、たった三人で：使ったものと言
えば弾丸一発と鼠のオモチヤと一本背負いだけで、クーデターを防
いだらしいな。」「二曹「一本背負いじゃなくて大腰：」「軍曹「シッ
！」「少尉「備品の端末を一台おしゃかにしました。クーデターも実
態があつたかどうか：大層な事は何も。」「

石野「クーデターや無差別テロを防ぎ、犯人を殺さず捕らえて：昇
進も昇給もなし。情自の人事制度は抜本的改革の要ありだな。」「少
尉「：いえ。そんなお話があつたとしても辞退したでしょう。：私
がもっと用心深ければ：中将は亡くなられずに済んだかもしれませ
ん。」「：自分を責めるな。不可抗力だ。」「

軍曹「お話中申し訳ありません。フタヨン回る。ＴＬ異常なし。メ

ロンパン値自然界レベル。」二曹「笠岡依然沈黙。兆候、ありません。」少尉「了解だ。一息入れよう。情報大佐はブラックにミルクを三滴、ですか?」「憶えているとは…まめな男だ。今の恋人もさぞ幸せだろう。」「…生憎と独り身です。」

少尉「今夜は何故こちらへ?着任は明日付けだったのでは?」石野「新しい職場の下見に…という建前で、本当は貴様の顔を見に来た。」二曹「っ?」「軍曹」…。「少尉」…部下の前でからかうのはご遠慮下さい。二人がリアクションに困っているではないですか。」「すぐ赤くなるその顔を見に来たのさ。」

少尉「お人が悪い。昔のまんまでいらっしやる。」石野「単刀直入に言おう。私はここに貴様をさらいに来た。南スーダンに自治区を創って暫定統治する。情自の主管でな。賢くて仕事の早い貴様のような人材が欲しい。…少尉。私と一緒に来い。上官と部下じゃなく、パートナーとして…私を支えてくれ。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8188y/>

少尉と軍曹2

2011年11月29日01時45分発行